

在シドニー総領事通信

第 22 回 戦後 75 周年：敵から友へ

令和 2 年（2020 年）8 月 21 日

今年の 8 月 15 日は、戦後 75 周年の終戦記念日でした。オーストラリアでは各地で記念式典が開催され、私はシドニーのマーティンプレイスにある戦没者慰霊碑に献花を行いました。

日豪両国は、第二次世界大戦では敵国同士でしたが、戦後早くから和解への歩みを進め、今や「特別な戦略的パートナーシップ」として幅広い分野で協力を推進しています。新型コロナウイルスで世界全体が保健や経済など新たな課題に直面する中で、日豪協力が果たし得る役割は更に大きなものとなっています。

戦後 75 周年という節目は、日豪間の戦争の歴史とともに、その後の和解と協力の進展の歴史を振り返り、思いを巡らせる良い機会だと思います。今回の総領事通信では、当地での戦後 75 周年関連行事の様子をお伝えするとともに、日豪間の戦争、和解と協力の歴史が持つ意味を、皆様と一緒に考えていきたいと思ひます。



豪 ABC 放送の第二次世界大戦終結 75 周年記念番組
(2020 年 8 月 15 日、豪 ABC 放送)

● 豪 ABC テレビの記念番組

8 月 15 日（土）午前 9 時半から、豪 ABC テレビは「オーストラリアは忘れない：第二次世界大戦終結 75 周年」と題する 30 分の記念番組を放映しました。オーストラリアが経験した戦争の様々な局面について、当時の記録映像と現在のインタビュー・証言を織り交ぜながら話を進めます。

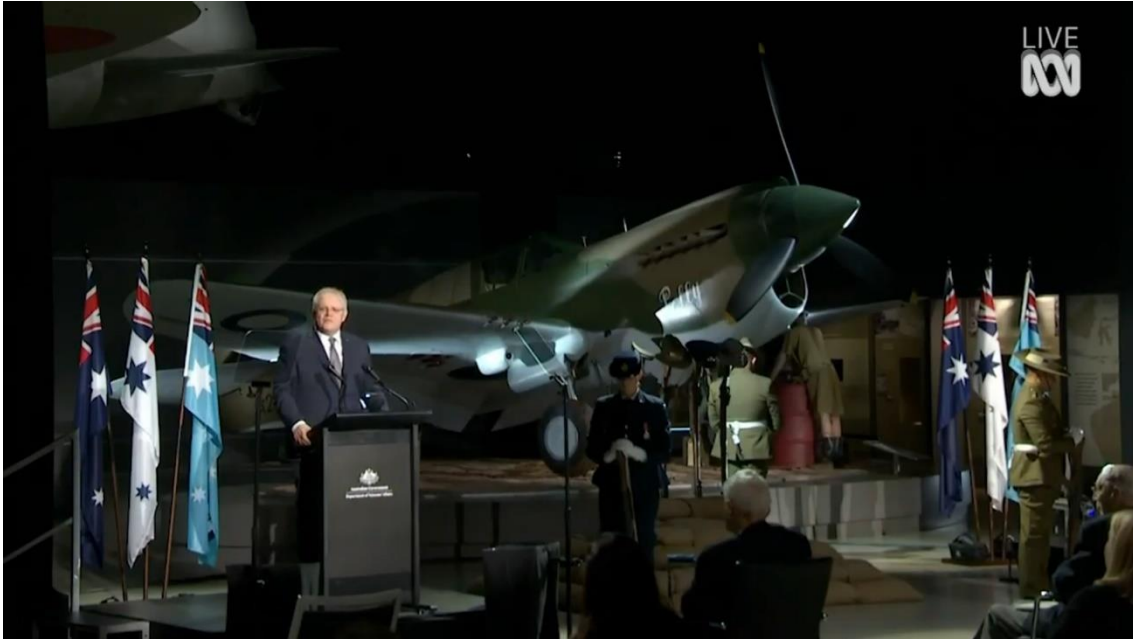
もちろん敵国日本が出てきます。真珠湾攻撃。シンガポール陥落。豪兵戦争捕虜の処遇。ダーウィン空爆。特殊潜航艇によるシドニー湾攻撃。ニューギニアのココダ道の戦い。そして、広島・長島の原爆投下、日本の降伏と戦争の終結。

勝利の報を受けての歓喜の渦の陰に、戻らぬ戦死者の家族も数多くいたことにも触れ、「戦争には、誰も勝者はいない。」(In war, nobody really wins.) との退役軍人のことばで番組を終えたのが印象的でした。

番組の司会者の一人は、日系オーストラリア人の田口久実氏でした。今回の新型コロナウイルスによる出入国規制がなければ、8 月 9 日に長崎で被爆した 24 名の豪兵戦争捕虜について、4 月に訪日取材を行う予定だったとのこと。田口氏が ABC で日豪の架け橋として活躍していることを心強く思いました。

「この番組への参画は、とても重要なことだと感じました。オーストラリア人と日本人の親を持つ人が、この戦争のドキュメンタリー番組の共同司会を務めることは、ほんの二、三十年前でも考えられないことでした。私は双方の架け橋として、特別な責任を感じました。このような機会がいかにか大事かを理解している公共放送局に勤めていることを、大変誇りに思います。」

田口久実



第二次世界大戦終結 75 周年全国記念式典でのモリソン首相式辞
(2020 年 8 月 15 日、豪 ABC 放送)

●全国記念式典

午前 10 時から、キャンベラのオーストラリア戦争記念館で戦後 75 周年全国記念式典が開催され、私も生中継をテレビで見ました。

モリソン首相は式辞の中で、かつての敵は友になったとして、例としてダーウィンを取り上げました。戦争から平和・友好に至るには多くの歩みが必要であり、小さいことも大きなことも全てが大事であったと述べました。そして、戦後、ダーウィンで日本のサルベージ会社が、沈没船の金属から 77 本の十字架を鑄造して教会に寄贈し、それは聖書の「(罪を犯した人を) 77 回までも赦しなさい」という教えに由来するとのエピソードを紹介しました。

更に、首相として最も感動した経験の一つは、日豪両首相がダーウィン戦没者慰霊碑で献花したことである、これでひとつの旅の終わりである (A complete journey.)、日豪は今や真のパートナーである、退役軍人達の奮闘は、まさにこのような世界をつくるためであった、と述べたのです。



ダーウィン戦没者慰霊碑に献花するモリソン首相と安倍総理
(2018年11月16日、内閣広報室提供)

モリソン首相は、8月15日付のオーストラリアン紙への寄稿でも、2018年の安倍総理のダーウィン訪問に同行したことに言及し、感動的な経験だったと記しています。そして、第二次世界大戦を担った世代は、このような友好関係が実現した世界を創ったのであり、戦争に勝ち、平和を築き、人道を救うために貢献したことに感謝する、我々は忘れない、と締めくくりました。

安倍総理は、2018年にダーウィンを訪問した際、イクシス LNG プロジェクト開始式典で、モリソン首相を前に挨拶を行いました。その中で、慰霊碑への献花のみならず、メンジース首相の「日本に対する敵意は、去るべし。回顧を常とするよりも、未来に希望をもつがよし」とのことばや、サルベージ会社の鑄造した77本の十字架のエピソードなど、様々な歴史に言及しています。

このような首脳同士の真摯なやりとりや信頼関係が、国と世界を動かしていくのだと改めて感じました。



シドニー・マーティンプレイスの戦没者慰霊碑への献花
(2020年8月15日)

●NSW州での行事

NSW州の太平洋戦勝記念日（VP Day）式典は、シドニー・マーティンプレイスの戦没者慰霊碑前で、午前11時から開催されました。しかし、今回はコロナ対策の人数制限のため、例年と異なり総領事は参列できませんでした。そこで、主催者の退役軍人会 NSW支部と相談し、行事終了後に献花をさせていただきました。このような機会に日本政府を代表して献花を行うことは、本当に大事だと思っています。

当館のソーシャルメディアでこの献花を報告する際、戦後75周年に際しての高橋駐豪大使の談話も併せて発信しました。「オーストラリアが日本に寛容と友好の精神を示したことに感謝します。」「戦後の前向きで友好的な日豪関係は多岐に亘り、経済のみならず文化交流、政治関係、防衛協力にまで広がっています。」「歴史の教訓を深く胸に刻み、より良い未来を切り拓いていく、大きな責任があります。」このメッセージを、少しでも多くの方々に届けたいと思います。



退役軍人会 NSW 州支部のレイ・ジェームス会長代行への挨拶
(2020年8月11日、於退役軍人会 NSW 支部)

●退役軍人会 NSW 州支部訪問

NSW 州での式典に先立つ8月11日、同式典を主催する退役軍人会 NSW 州支部のレイ・ジェームス会長代行に挨拶に伺いました。同支部の事務所は、マーティンプレイスを見下ろす市内中心部のビルにあります。

私からは、日豪両国にとって戦後75周年の機会は重要と考えており、これまでオーストラリアが寛容と友好の精神を示し、和解と協力が進んでいることに謝意を伝えました。

ジェームス会長代行は、ベトナム戦争に従軍したとのことですが、ご家族を通じて日本の友人と親しく交流しているとのことでした。草の根の様々な交流がオーストラリア人の日本人に対する親近感を高めていると感じました。



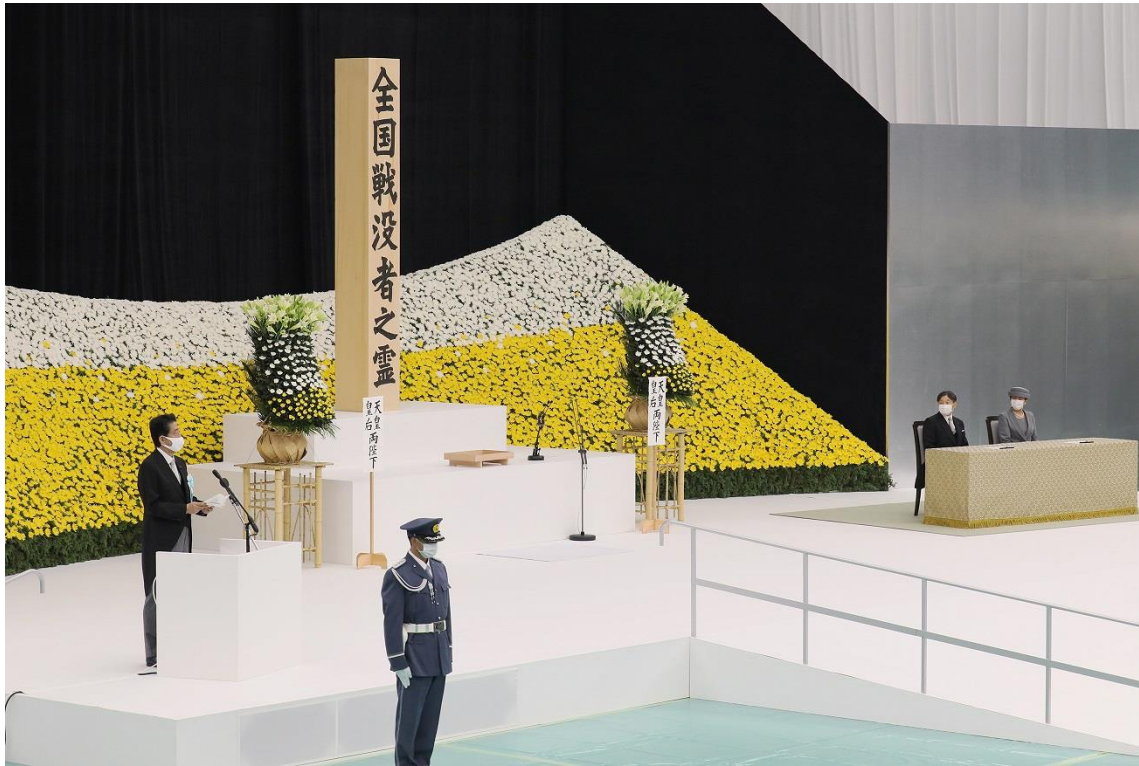
ANZAC 記念館での「1945年：熱い戦争から冷たい戦争へ」の展示
(2020年8月17日)

●ANZAC 記念館訪問

週明けの8月17日、シドニー市内のハイドパークにあるANZAC 記念館を訪問し、展示を視察しました。同館では戦後75周年の機会に、本年3月から来年2月までの特別展「1945年：熱い戦争から冷たい戦争へ」を公開しています。

入口には長崎原爆のキノコ雲の写真、室内には広島原爆の投下後の廃墟の写真が大きく掲げられ、第二次世界大戦の終結から核抑止の時代の幕開けに移行する時代を示しています。また、泰緬鉄道や降伏文書署名の展示もありました。日本との戦争の様々な記憶は、日豪の和解が進んでも、未永く語り継がれていくと実感しました。

今月から、この展示はウェブサイト上のバーチャル・ツアーで見ることが可能になりました。よろしければ是非ご覧ください。



全国戦没者追悼式での安倍総理式辞
(2020年8月15日、内閣広報室提供)

●日本での全国戦没者追悼式

8月15日、日本でも式典が行われました。天皇皇后両陛下御臨席の下、安倍総理は、日本武道館で行われた全国戦没者追悼式に参列し、式辞で以下のとおり述べました。

戦後75年、我が国は、一貫して、平和を重んじる国として、歩みを進めてまいりました。世界をより良い場とするため、力の限りを尽くしてまいりました。

戦争の惨禍を、二度と繰り返さない。この決然たる誓いをこれからも貫いてまいります。我が国は、積極的平和主義の旗の下、国際社会と手を携えながら、世界が直面している様々な課題の解決に、これまで以上に役割を果たす決意です。現下の新型コロナウイルス感染症を乗り越え、今を生きる世代、明日を生きる世代のために、この国の未来を切り拓(ひら)いてまいります。

この方針を当館でも実行し、オーストラリアと手を携えて、世界が直面する諸課題の解決に取り組みたいと思います。



在シドニー日本国総領事公邸の半旗
(2020年8月15日)

●敵から友へ

8月15日、総領事公邸では半旗を掲げました。晴天に旗が翻り、戦争からの時の流れを感じました。

戦後75周年の一連の行事の中で、モリソン首相の式辞に込められた哲学に、心から感銘を受けました。かつての敵を、憎み続けるのではなく和解して、今の友とすることこそが、戦争に身を投じた同胞に報いる道である、との信念です。「敵から友へ。」これをオーストラリアは日本との関係で実践しています。

この信念は、日豪にとどまらない普遍性を持っています。「敵から友へ」を世界に広げていくために、幅広い日豪協力を推進するとともに、その意義と成果を世界に発信したいと思います。

第二次世界大戦終結 75 周年・豪 ABC 特別番組と記念式典（2020 年 8 月 15 日）
（英語）

<https://youtu.be/GTMsF9U1vYI>

豪 ABC 田口久美氏の第二次世界大戦についての記事（2020 年 8 月 9 日）（英語）

[https://www.abc.net.au/news/2020-08-09/kumi-taguchi-nagasaki-
hiroshima-atomic-bomb-survivor-covid/12529238](https://www.abc.net.au/news/2020-08-09/kumi-taguchi-nagasaki-hiroshima-atomic-bomb-survivor-covid/12529238)

75 周年記念式典でのモリソン首相式辞（2020 年 8 月 15 日）（英語）

[https://www.pm.gov.au/media/commemorative-address-australian-war-
memorial-act-150820](https://www.pm.gov.au/media/commemorative-address-australian-war-memorial-act-150820)

モリソン首相の戦後 75 周年に際しての豪オーストラリアン紙寄稿（2020 年 8 月 15 日）（英語）

[https://www.theaustralian.com.au/inquirer/nation-forged-in-the-fire-
ofwar/news-story/b594aaf874f2609a59ad0167fcf4e932](https://www.theaustralian.com.au/inquirer/nation-forged-in-the-fire-ofwar/news-story/b594aaf874f2609a59ad0167fcf4e932)

安倍総理のオーストラリア訪問（2018 年 11 月 16 日～17 日）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/a_o/ocn/au/page4_004506.html

高橋礼一郎駐豪日本国大使の談話（2020 年 8 月 15 日）（英語）

[https://www.au.emb-
japan.go.jp/itpr_en/15082020_Statement_by_Takahashi_Reiichiro.html](https://www.au.emb-japan.go.jp/itpr_en/15082020_Statement_by_Takahashi_Reiichiro.html)

ANZAC 記念館特別展「1945 年：熱い戦争から冷たい戦争へ」（英語）

[https://www.anzacmemorial.nsw.gov.au/event/exhibition-1945-hot-war-
cold-war](https://www.anzacmemorial.nsw.gov.au/event/exhibition-1945-hot-war-cold-war)

令和 2 年度全国戦没者追悼式総理大臣式辞（2020 年 8 月 15 日）

https://www.kantei.go.jp/jp/98_abe/statement/2020/0815siki_ji.html

（以上）